



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



## 大阪部会 (No.78)

日時: 2022年 1月 29日 (土) 15:00 - 17:10

場所: ネット会議

参加者: 篠原総一代表を含め20名

### 【内容要旨】

今回の部会は対面とオンラインの併用（ハイブリッド）を予定していたが、コロナ第6波の拡大により、オンラインのみで開催された。

まず安野雄一氏（大阪市立東三国小学校）から「老後2000万円問題！君はどう資産運用する！？～小学校高学年段階における金融教育に関する単元開発」と題する授業実践が報告された。小学校5年生を対象に行われた科目横断的（社会、家庭、総合）な、全8時にわたる授業である。内容は経済・金融に関するものであり、預金、外貨預金、株式、外国株式の仕組みや特徴を調べ話し合いながら資産運用について学び、同時に物価や為替レートとの関係を理解することも目指されている。途中、振り返りシートを使って資産配分の仕方を何度も問いかけることによって、学習成果が資産運用に反映されることを体験し、最終的には、将来、生徒の生活判断に役立つことが期待される単元授業となっている。

部会参加者からは、資料の活用や外部機関との連携も含め高く評価する声が聞かれた。また、小学生には難しいと思われがちな為替レートの教え方、地理で学ぶ株式会社の仕組みとの関係、教科書からはみ出す授業の価値について、質問や意見が出された。

次に新井明氏（目白大学等）からは、1月8日に開催された「先生のための冬休み経済教室－授業に使える行動経済学」の総括と、行動経済学についての追加的な整理が行われ、それらをふまえて行動経済学を使った教材集を作成してはどうかとの提案があった。最後の提案を実行に移すために、新井氏からは、教材作成に役立つ整理表が示された。行動経済学の主な事例と考え方を分類列举し、高校で学ぶ経済関連の分野と関連づけようとした労作である。加えて、昨年9月に作成した「コロナ教材」の時の経験を参考に、教材原稿のフォーマットまで提示された。

参加者からは、教科書に書かれている伝統的経済学との関係をどう説明するのかという点、行動経済学が授業で使える分野はそれほど多くなく絞り込みが必要であるという点、高校はともかく中学では難しいなどという点が指摘されたが、教材作成を今後進めていくことになった。

最後に阿部哲久氏（広島大学附属中・高等学校）から、『『公共』の経済単元の開発と実践』と題する報告があった。2022年度から始まる『公共』は、『現代社会』のマイナーチェンジであってはならない。そう考えた阿部氏が、本来この科目が意図していることを実現するために開発した授業モデルである。経済単元（指導要領内容B）から取り上げられたのは、「老後の備えはどうすべきか」（8時間）と「私たちは将来どんな働き方をするのだろうか」（10時間）という二つの小単元であり、前者は金融の仕組み、利子の決定、企業会計、税と年金などが、後者は分業の利益、比較優位、再分配政策などが主な内容となっている。両者に共通する授業構成として、単元の最初には扱う題材に関わってグループで課題などを出し合う時間を設定し、最後にはグループ活動を離れて個人で考えをまとめる活動が設定されている。



また、経済的な見方・考え方を見につける概念学習、調査活動、ロールプレイ、議論による合意形成などが両単元ともに組み合わせられており、それらを行きつ戻りつしながら『公共』で求められている資質・能力が身につくように工夫されている。単元終了後の生徒アンケートなどを用いて、この実践の成果も検討されており、阿部氏が意図したことがかなりの程度実現できたようである。質疑の時間はあまり取れなかったが、公共の授業モデルとして非常に参考になるとの感想が多かった。

(文責：野間敏克)

テスト問題 (新テストなど)	中学 <input checked="" type="checkbox"/> 小学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	新聞教材(NIE)
-------------------	---	--	---	-----------

次回開催予定：4月23日(土)15:00～17:00、ハイブリッド会議

議題:行動経済学を用いた授業提案など